

平成 21 年 11 月 24 日

保育園・幼稚園保護者 様
小学校・中学校保護者 様

島田市教育委員会
委員長 小関秀利

(島田市教育委員会からの提言 その3)

自然を友に

は
赤い葉を集めて自然のランプつく —— (市内小学5年生)

柿の木には熟れた実がわずかに残っていますが、木の下には、赤や緑のモザイク模様の葉が落ちています。その色合いがあまりに美しいので思わず手にとって見ます。一枚の葉がこれほどきれいな色でデザインされる——。

近くの山ぞいを歩いているとき、はっと目を奪われました。山の斜面に真っ赤な葉の茂みが燃えていたからです。うるしの葉のようですが何となく違います。胸を突かれた心地よい余韻がしばらく残りました。

このところ毎日のニュースは殺人にまつわることが目に付きます。子どもたちにはもっと希望的な温かい情報を届けたいものです。が、殺伐とした情報は止む気配がありません。

四季折々に変化する自然の姿——、小さな風景であっても、雄大な風景であっても、それらに触れることで、人は温かさや優しさや静かな気持ちを取り戻すことができそうです。特に子どもは、体じゅうにやわらかい感性のアンテナを立てているのですから。電子メディアの画面やキーボードから、しばらく離れて自然を友とする機会をもちませんか。

そういえば、「子どもたちへの一番大切な贈り物は、美しいもの、未知なもの、神秘的なものに目を見張る感性です。その感性を育てるために子どもと一緒に自然と触れ合いましょう」と言った世界的な学者(レイチェル・カーソン)がいました。

さざんか さか
山茶花の長き盛りのはじまりぬ —— (富安風生)